

国際耕種と私・松島修市

あらためて国際耕種を語る

AAI ニュースとは、我が国際耕種が目下に展開する社業活動などをベースとし、農業・開発分野に係る技術的な知見や見解等を所縁のある方々にリアルタイムに披露させて頂いているものです。私共からの一方向的な発信であるし時には十分に消化し切れずにご覧いただくことかもしれませんが、読者諸氏には寛容にご容赦頂き励ましの返信をお寄せいただくなど、皆さまとの直の繋がりを有難く実感しております。

さて、このように本ニュースを通じて繋がる私共ではありますが、ふとこんなことが頭をよぎります、「読者の皆様には、“発信者である我々 AAI とは何者か”をよくご承知いただいているであろうか」と。そうだ、我々は技術的事象や独言を発信し続けながらも、我々自身についてお伝えしてないのではないか。それではいけない、ここでは改めて国際耕種とその近況などに触れてみたいと思います。

AAI は、世間的には一農業技術コンサルタント会社ということになっています。コンサルタント会社としての AAI については、ホームページなどから大方はご理解いただけるでしょうが、東京都町田市に事務所を構え、主に諸途上国あるいは途上国の人々を対象に農業開発・農業技術支援に係る一株式会社です。そもそも会社とは、通念上は「利益獲得を目指して様々なりソースを結合・集中させながら事業活動を展開する経済的主体」のこのことです。また、コンサルタントとは、「自らの能力・経験等を活用しながら顧客の抱える固有の問題・課題の解決に向けてサポートする個人／組織」と理解されています。それらからは、颯爽とコンサルタント業務実績を積み重ねるスマートな専門家集団像が浮かんできそうです。しかしながら、国際耕種はそのイメージからは少し外れているようです。

1984 年 12 月に創業以来、技術的興味の追求と同好の仲間たちとの交流重視を社風としてきてい

ます。仕事ぶりもかなり独特です。国際耕種の会社紹介では「現場主義」が謳われていますが、これは単に「行動力溢れるコンサルタント」を目指すという意味ではありません。「リアリティの伴わないコンサルティングは価値がない」ということでありましょうか、コンサルタントという立場に立ちつつも自然・社会事象そのものに対する興味に強く拘るという想いが込められています。時限的、部外者的になりがちなコンサル業務の枠に埋没しないという意志でもあります。また会社としても国際耕種はやや特異で、創業以来、業績目標を掲げたことが無いなど利益獲得などにはあまり熱心ではありません。要するに我々は、主に農業技術に強い興味と拘りを持つ少人数が寄合い、なによりも技術的好奇心の充足と同好の輪の拡大を楽しむ集まりといっておよいでしょう。



雑然とした社屋スペースの中、今日も社員たちが嬉々として活動しています

本文文責の松島はこの 6 月に退社します。退社を前にして AAI ニュース記事執筆の役回りに廻り合わせその記事内容の選択に大いに悩みましたが、お別れとしてこのような内部から見た国際耕種の実像をあらためて披露しておきます。読者の皆様には、このような国際耕種の経緯と實際を再度ご認識いただき、ますます若返っていく国際耕種をこれまでも増して暖かくご支援いただくことを切にお願いいたします。